

もの言う牧師のエッセー 第255話 リオ五輪③ 「妻の涙と回りの応援」

柔道男子60級で高藤直寿選手の銅メダルが決まった瞬間、スタンドの志津香夫人は、あふれる涙をハンカチで必死に押さえていた。自身も同じ柔道の元強化選手だったが、社会人になってからは怪我に泣き、結婚直前に現役引退。

高藤選手は13年に世界王者となり、成績も順調だったが、結婚直後の2014年夏、世界選手権の遠征先で深酒による遅刻騒ぎを起こし、全日本柔道連盟から強化指定選手のランク降格の処分を受け、主要国際大会に派遣されなくなった彼は酒に逃げ、酔って帰宅しては自分の最盛期の動画を見て泣いた。志津香さんは、夫の処分から間もなく生まれた長男の子育てに追われながら、どうすれば夫を発奮させられるか悩み続けた。そんな折、彼女は高藤選手と同じ60キロ級で五輪3連覇した野村忠宏氏の引退試合があると聞き、渋る夫を送り出した。

野村氏から「期待している」と声をかけられた夫は徐々に立ち直り、深酒しなくなり、子育てを手伝うようになった。柔道でも結果が出始め、国際大会で勝ちを重ね、ついにリオ五輪切符を手にしたのだった。「今までの自分だったら負けて気持ちが折れてしまったと思うけど、回りの人たちの応援があったからこそ銅メダルが取れた。感謝の気持ちで一杯です。」と試合後に涙を流しながら語る高藤選手を見て、聖書の言葉

「もしひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。」

三つ燃りの糸は簡単には切れない。」

伝道者の書4章12節、

を思い出した。誰でも失敗することはある。しかしキリストは「期待している」と優しく見守ってくださる。そして、苦楽を共にするパートナーたちを折に適って送ってくださる。教会とはそういう場所なのである。

2016-9-22

